Newsletter

Vol.31 2016.12.1

日本養護教諭養成大学協議会

日本養護教諭養成大学協議会
ニューズレターVol.31
会　長　荒木田美香子（国際医療福祉大学）

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目　次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会副会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・1
2016年度総会を終えて・・・・・・・・・・・・・2
総会・養成教育フォーラムを終えて・・・・・・・2
2016年度総会報告・・・・・・・・・・・・・・・2
養成教育フォーラム・セミナーの報告・・・・・3
養護教諭関係団体連絡会の活動について・・・・・4
各種委員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・5
協議会活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・5
10周年記念誌の発刊にあたり・・・・・・・・・・6
事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・6

副会長挨拶

副会長
遠藤伸子
（女子栄養大学）

本協議会の理事を務めて2年、思いがけず残りの任期で副会長をお引き受けすることになりました。これまで以上の責任を感じながら協議会の充実や発展に向け精一杯の努力をする所存です。

会員校の先生方には変わらずにご意見ご指導賜りますよう心よりお願い申し上げます。

さて、本協議会は創設10周年を経て記念誌を発行させて戴きました。ご覧になって戴けましたでしょうか？発足当時の御苦労やこれまでの経過を知るにつけ、本会をずっとお支え下さった諸先輩方や会員校の皆様方に敬意と感謝の気持ちで一杯です。

その一方で、今後の養護教諭そして養護教諭養成の在り方について一抹の不安を感じております。といいますのも現在進行中である教育改革は、第２次安倍内閣の教育再生実行会議の終盤であり、中でも第七次提言の「チーム学校」の実現や「教職課程の見直し」については、養護教諭の職務をはじめ養成教育にとって大きな影響を及ぼすと考えられるからです。例えば、「チーム学校」について示された工程表では、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW)の配置や定数などの法令改正等を平成30年までに行い平成32年には実施としていますが、どのように配置され、定数になるかは今のところ全く未知数です。

一方の教職免許法の改正につきましては、今年度には決定、平成29年度には各大学の課程認定の準備・事前相談、平成30年度には新課程認定、平成31年には実施とされています。ご存知のようにモデルケースとして現在までに示されているのは小・中・高等学校のモデルのみで養護教諭については全く示されていません。

前号までのニューズレターでも報告させて戴いたように本協議会は、養護教諭関係の７団体と連絡会（以下連絡会）を発足させました。

連絡会では、各団体で検討した内容を摺合せ、9月16日付けで馳（前）文部科学大臣に要望書を提出しました。その後、松野文部科学大臣に変わった後、どのように進んでいるのか情報が乏しかったため、連絡会を通じ様々にアプローチした結果、10月5日に連絡会の委員と教職員課及び健康教育・食育課で話し合いをする運びになりました。その結果、前述した２課と連絡会の役員から意見を聴取する会議を持って戴けることになり10月20日に免許法改正に向けての連絡会の要望を説明して参りました。この後は2課が連絡会の要望書等を参考にしながら作成したものをお示し戴けることになっています。連絡会の要望の中身につきましては､本会のカリキュラム委員会が長らく検討してきた内容も多く反映されております。本会のカリキュラム委員会で検討してきた経緯や内容につきましては、平成27年度の活動報告書や９月の総会でも報告させて戴いております。今後の交渉は、本会も連絡会の団体の１つとしての動きとなりますが、この年末までが山場になるようですので、今後の動きに注目し会員校の皆様には逐次、情報の提供ができるよう努めて参りたいと思います。引き続きのご理解とご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

日本養護教諭養成大学協議会 2016年度総会・養成教育　フォーラム・養成教育セミナーを終えて

会長　荒木田美香子(国際医療福祉大学

2016年9月1日には養護教諭養成教育セミナー、翌9月2日には本協議会の総会ならびに養成教育セミナーを開催させていただきました。2日間にわたり多くの会員校が参加してくださいましたこと、また熱心なご議論をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

今回の総会は大きな議題がいくつもありました。本協議会の根幹をなす会費値上げについてご審議をいただき、賛成多数で2017年より会費を3万円と改正させていただくことになりました。また、この総会の中では、役員の労をねぎらっていただくご意見とともに、会費の有効活用についてもいくつかのご意見を頂きました。加えて、2015年の中央教育審議会の３つの答申及び2016年中に教育職員免許法等が改正されることが予想されるため、それらに関する情報や、本協議会の委員会情報などの提供のあり方についてのご意見もいただきました。いずれも真摯に受け止めながら改善に努めていきたいと考えております。

今年度の総会は、この他にもいろいろな議案がありました。まず、長いあいだ役員としてご活躍された岡山大学の三村副会長がご都合により副会長及び役員を降りられることとなりました。三村先生のこれまでのご尽力に感謝をするとともに、可能な範囲で今後もご支援をしていきたいとお願いをいたしました。また、多くの方々の献身的な努力により「日本養護教諭養成大学協議会10周年記念誌」を作成することができました。この記念誌は10年間の本協議会の歩みを中心に掲載はしておりますが、本協議会発足時の役員の熱い思い、さらには養護教諭の大学院教育について、教職実践演習の実施に向けての取り組みなど、教員養成の変遷の歴史を養護教諭養成の立場からどのように実現してきたかということがわかる貴重な記念誌となりました。本協議会の１つの歴史をまとめることができたことについて大きな意義を感じております。

新たな教員養成課程のスタートは2019年（平成31年度）からとなる見込みです。そのための準備期間として2017年度があり、新課程申請の期間として2018年があります。これらの大きな動きの中で、今後も文部科学省等もパブリックコメントを出す可能性もあるかと考えております。会員校の皆様のご意見を頂きながら、養護教諭養成の向上のために会員校ができることを考えながら、役員が一致団結して進めていく所存です。

2016年度　総会報告

１　開会：三村副会長より、開会が宣言された。（125大学中、出席98、委任状13）

２　会長挨拶：荒木田会長より、熊本地震、台風災害へのお見舞いと、セミナー参加127名、情報交換会参加71名で有意義な時間となったこと、10周年記念誌は歴代会長、副会長のご協力と、櫻田理事、大原元理事を中心に多くの人々の労力で完成したことが報告された。

３　議長選出：鹿間久美子（京都女子大学）、葛西敦子（弘前大学）が選出された。

４　議事【報告事項】

議題１　2015年度事業報告　荒木田会長より報告され承認された。

議題２　2016年度事業（中間）報告　荒木田会長より報告され承認された。※事業追加：日本養護教諭養成大学協議会10周年記念誌の発行を追加する。

【審議事項】

議題１　2015年度決算報告　宍戸理事より報告された。

議題２　2015年度監査報告　大嶺監事より監査報告され賛成多数により承認された。

議題３　2016年度修正予算案　宍戸理事より修正の説明と提案され、賛成96、反対4で承認された。

議題４　2017年度事業計画案　荒木田会長より説明され、賛成多数により承認された。

議題５　会則改正について　荒木田会長より改正の必要性の根拠について説明された。

➤概要：会則第5条2項、会費は会員大学1校につき年額20,000円とする、を30,000円とする改正案。103大学中賛成96、反対7により会則改正は承認された。

議題６　2017年度予算（案）について　宍戸理事より2017年度予算案A（値上げ）案(会費3万円での予算案)の資料に基づいて説明と提案があり、賛成83、反対13で承認された。

議題７　役員の解任及び補充　荒木田会長より、副会長の三村由香里理事（岡山大学）の解任を認め、下村淳子先生（愛知学院大学）の理事就任の提案があり、賛成多数で承認された。任期は三村理事の任期の期間とする。

５．議長解任　全議題の審議等が終了し、議長が解任された。

６．副会長挨拶　櫻田副会長より、本日の協議会への示唆を反映させてよりよい運営を心がけることと、運営への協力要請があった。

７．閉会　三村副会長より閉会が宣言され、総会を終了した。

【養護教諭関係団体連絡会報告】

荒木田会長より資料に基づいて、連絡会及び検討ワーキンググループと、養成カリキュラム案について説明がなされた。

（教育課程・養成制度検討委員会）

2016年度　養成教育フォーラムの報告

「中央教育審議会答申と今後の教員養成施策について」と題して、文部科学省 初等中等教育局 教職員課 教員免許企画室長 山下恭徳氏のご講演を拝聴しました。子供をめぐる現状と課題、教育再生実行会議の提言と取組学習指導要領改訂の視点、これからの教育課程の理念、未来を担う子供たちのために「次世代の学校・地域」創生プラン、「チーム学校」の実現による学校の教職員等の役割分担の転換、学校と地域の効果的な連携・共同と推進体制について資料をもとにご講演いただきました。次に、教員養成の課題、これからの学校教育を担う教員の資質向上について、教員の資質向上にかかる仕組みの整備（教員育成協議会）、教員の資質能力の高度化の促進、学び続ける教員を支えるキャリアシステムについてもご講演いただきました。

山下恭徳氏

「これからの学校教育を担う教員の資質、能力の向上について」の答申（27年12月）では、自ら主体的に学んでいく教員が理想的な教員像である。個々の教員の学びを支援するためのシステムは、養成、採用、研修の全体にわたって必要ではないかという観点から、養成段階から採用後の段階に至るまでの、それぞれのキャリアステージを見直す。養成の段階においては、教職課程の見直しを進めていく必要がある。特に教職課程については、法律上、三つの区分と、それぞれの区分ごとの単位数が示されているが、今回の見直しの提言では、法律上の三つの教科に関する科目、教職に関する科目、教科、または教職に関する科目という三つの区分を撤廃して統合して、一つの教科および教職に関する科目でまとめていくと提言している。今後の教職課程は、教育に関する世の動きに弾力的に対応できるような仕組みを取っていく必要があるこの大きなフレームを見直した。

今後の教育改革の全体のスケジュールは、制度改正を今年度中に終わらせ、29年度に各大学で再課程認定の準備をする。30年度にその再課程認定の審査を行い、31年度から新教職課程をスタートさせるタイムスケジュールを考えている。養護教諭の教職課程、別表第2およびそれに関連する中身については、健康教育食育課が政策を担当しており、「これからの養護教諭、栄養教諭の在り方に関する検討会議」を開催し、そこでの議論の結果を踏まえつつ、引き続き検討していくこととなる。

（教育課程・養成制度検討委員会）

2016年度　養成教育セミナーの報告

2016年度養成教育セミナーは、9月1日（木）13:00～16:30に開催いたしました。今年度の企画運営は、FD検討委員会が担当しました。今期は「養護教諭養成におけるアクティブラーニング゛の充実」をテーマに2年目を迎え、今年度は、養護教諭養成教育におけるアクティブラーニング゛を活用した授業内容、授業方法、授業評価について取り上げ、127名の会員の皆様にご参加をいただきました。

前半はＡＢＣ三つの分科会で、授業計画に基づいた授業発表、研究協議を行いました。Ａ分科会は、科目「養護概説」で授業名“養護教諭の歴史”について塚原加寿子先生(新潟青陵大学)にご発表をいただきました。Ｂ分科会は、科目「健康相談活動の理論と方法」で授業名“循環器疾患のある子どもの理解と支援”について西牧眞理先生・年森敦子先生（鎌倉女子大学）にご発表をいただきました。Ｃ分科会では、科目「看護学」学校看護学実習で授業名“フィジカルアセスメント”について葛西敦子先生(弘前大学)・佐藤伸子先生(熊本大学)にご発表をいただきました。

川越明日香氏

分科会後のの全体会では、ＡＢＣ各分科会から授業発表内容及び協議内容の報告をいただきました。その後、国立大学法人長崎大学 大学教育イノベーションセンター川越明日香氏より「アクティブラーニングの理論と実践の融合 - 授業を参観して - 」と題してのご講演、また参加者からの質問、授業デザインや評価について指導助言をいただきました。

（ＦＤ検討委員会）

情報交換会の報告

今年度から、懇親会を情報交換会と名称を改めさせて頂きました。情報交換会には71名の会員の皆様にご参加いただくことができました。突然の会場変更にも関わらず、皆様に快くご了承していただき、ありがとうございました。

今年は、全員の顔が見られ、多くの皆様の声を聴くことができて良かったと思います。次年度も、同じ会場を予約いたしました。事前申し込みについてのご意見はいただきましたが、会場予約等の都合で応じられずご了承ください。

養成教育フォーラムでの講演
－熊本地震での子供の健康と学校支援の現状－
理事　津島ひろ江（関西福祉大学）

熊本に4月14日21時26分益城町を震源として最大震度7の前震に続き2日後の深夜に本震が発生しました。その後、2週間で1000回の余震があり、総会開催の前週では2050回を超え、減衰しつつも揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が引き続き高まった状態です。過去に例のない余震の恐怖で安らぐ日もない、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

佐藤伸子氏

2016年9月の総会の養成教育フォーラムで、「大学から幼稚園までの支援の実際と大学避難所での対応から思うこと」と題して、熊本大学教育学部養護教諭養成課程で看護学をご担当の佐藤伸子先生から被災地の現状、子供の状況、学校の支援、養護教諭の対応についてご報告をしていただきました。今思うと、先生ご自身・家族も被災地の復興にご尽力され、また熊本大学の学生の教育（養護実習や看護実習等）を保障するために、また、学生のボランティアを支援するなど大切な夏期休暇を走り回っておられる時でした。電話連絡をした際に、佐藤先生は学校に出向き、養護教諭の先生の対応について、聞き取りに出かけられていたことからも察することができます。

佐藤先生が自ら被災地の学校を訪問され、以下のことを聞き取り、報告してくださいました。養護教諭のかかわりについて目を向けると、避難所対応では①救護担当者として専従する方がいる一方で、教職員メンバーの一人としてシフトに入り、様々な役割を担っている方もいた。②専従した養護教諭の多くは、自身のことは脇に置き、救護活動で過労状態に陥っている人もいた。学校再開後は、③ストレスマネジメントについて講話を行ったり、「保健だより」を発行して情報提供を行ったりして子供の心身の安定を図っていた。④最長2.5週間の休校であったため健康診断を実施していくことに苦慮していた。⑤子供の健康状態については、日々の健康観察を地震前より丁寧に行ったり、チェックリストを用いた調査を定期的に実施したりして把握していた。　⑥その結果を担任や養護教諭がまとめそこで上がってきた子供を担任や養護教諭が面談をした後、必要に応じ、保護者の意向を尊重してスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにつないでいたことなどが挙げられます。

最後に、先生から「熊本には地震直後の状況がそのまま残っているところがたくさんあります。だからこそ、全国の皆様にお越しいただき、皆様のご支援で復旧復興していく熊本の姿を見届けていただければ嬉しく思います。是非、足をお運びください。」と語られました。このような厳しい状況の中で、東京での総会においてご講演してくださいましたことを心から感謝申し上げます。

養護教諭関係団体連絡会の活動について
会長　荒木田美香子（国際医療福祉大学）

ニュースレター30号においては平成27年11月の養護教諭関係団体連絡会（以下、連絡会）の発足から平成28年5月までの報告をさせていただきました。9月の総会においてもその間の活動報告をさせていただきました。今回は、平成28年9月以降の活動につきまして簡単にご報告をさせていただきます。

文部科学省の中央教育審議会の答申にもある「チーム学校」の推進に向けて、その一環として、養護教諭や栄養教諭のあり方を検討する委員会が開催されております。その委員会メンバーとして、連絡会の会長として後藤ひとみ先生が参加されておられます。本協議会の総会後の養成教育フォーラムにおける山下恭徳氏の講演にもありました「有識者会議」がこの検討会となります。この委員会の下部組織として養護教諭と栄養教諭それぞれのワーキングが開催されており、養護教諭は「これからの養護教諭の在り方について」ということで開催されています。連絡会のメンバーは、当初、この検討会の中で養護教諭の養成課程のあり方についても検討されると考えておりましたが、実際はチーム学校の推進における養護教諭のあり方を中心に検討する内容のように思われました。そこで、養成課程の検討の時期を逸しないようにという思いから、連絡会としては文部科学省に働きかけるだけではなく国会議員などにも働きかけようと言う意見があり、 9月16日に後藤先生が馳元文部大臣と、また荒木田・櫻田・遠藤の3人が9月20日に石田昌宏参議院議員に面会をし、養護教諭の養成課程において質の向上を目指した改正が必要である旨、説明をしてきました。その後、連絡会と文部科学省健康教育・食育課及び教職員課合同の会議が、10月5日及び11月2日に開催されております。連絡会からは養護教諭養成課程の総単位を56単位から59単位とすること、また小児疾病論や健康教育論を始めとした新設科目などを盛り込んだ具体的な改正案を提示してまいりました。

現時点の話し合いの中では、教育職員免許法の改正などの進捗状況から、59単位とすることが不可能であると言うことがわかっております。上記の検討会及び養護教諭の養成課程の見直しにつきましても年内にはおおよその案が出されるとの見通しを文部科学省より聞いております。今後も両課との話し合いが開催される予定です。また、検討会の結果などが入りましたら、ニュースレターのみでなくメールなどでも皆様に情報提供をさせていただきます。

各種委員会報告

「養成制度検討委員会」「カリキュラム検討委員会」活動報告

委員長　大川尚子（関西福祉科学大学）

本検討委員会では、協議会の設立当初の原点に返り、養成教育の充実と養護教諭の資質向上に向け、免許法を見据えた検討をしていくべきであると考えています。チーム学校の中で養護教諭が果たしていく役割を明確にし、そのために必要な養成カリキュラムを整えることとその根拠を準備していくことが重要であることを確認し検討をしています。

今までは、修得させたい力を明確に示すうえで、科目名を細かく指定する方向で議論してきましたが、文部科学省は大くくり化の方向に流れています。「養護教諭の実践」に必要な力が見えるように根拠をあげて示しながら、会員校が行う教育の質を高めることのできる授業内容を示しつつ、免許法改正の動きに合わせ文部科学省に示せる根拠を作ることが本委員会の役割であることを確認し活動しています。

第2回検討委員会を8月30日に開催し、より具体的な教育内容が明確になるよう、その根拠や具体的な教育内容について、①養護実践学・養護学概論、②健康教育学、③小児疾病学の３つの小グループで検討すると同時に、どのような養護教諭を育てたいかを明確にし、協議会の会員大学の様々な養成に応えられるような内容や工夫点を示すことができるように検討を続けています。

「FD検討委員会」　活動報告

委員長　中下富子（埼玉大学）
遠藤伸子（女子栄養大学）

ＦＤ検討委員会は、平成27～29年の三年間、養護教諭養成教育におけるｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの充実を図ることをテーマとしています。今年度2年目では、アクティブラーニング`を活用した授業実践について活動を展開しています。第1回委員会を6月25日（土）、第2回委員会を10月16日（日）に開催しております。第1回目は、養成教育セミナーでの円滑な運営や委員の役割、指導助言をご担当いただく川越明日香先生との打合せ内容を報告する等、養成教育セミナーの具体的な運営方法や担当等について協議いたしました。第2回目は、養成教育セミナーでの質問紙調査結果に基づいて振り返り、来年最終年度における委員会の活動内容について検討しております。

協議会活動報告

【2016年度 第1回拡大カリキュラム委員会】
日時　2016年4月29日(金)　13：00-17：00
場所　高知県立大学サテライトキャンパス
参加者　協議会役員、カリキュラム委員会委員
審議事項　養護教諭関係団体連絡会に提案する養護教諭の免許法の内容について協議しました。

【2016年度 第１回役員会】
日時　2016年６月11日（土）10:30-16:00
場所　高知県立大学サテライトキャンパス
参加者　協議会役員全員
主な審議･報告事項　①活動報告書の構成について ②10周年記念誌の構成について ③本年度委員会活動について ④総会運営とプログラムについて⑤養成教育フォーラムの内容について ⑥教育セミナーの企画について ⑦情報交換会の会場について ⑧協議会会費値上げについて ⑨養護教諭関係団体連絡会の要望書内容と保健師免許に基づく養護教諭二種免許取得に反対する意見について

【2016年度 第２回役員会】
日時　2016年７月23日（土）17:00-20:00
場所　高知県立大学サテライトキャンパス
参加者　協議会役員全員
主な審議･報告事項　①総会・養成教育フォーラムの進捗状況と運営について ②2015年度の会計報告と値上げについて ③養成教育セミナー準備の進捗状況と運営について ④養護教諭関係団体連絡会の要望書内容及び保健師免許に基づく養護教諭二種免許取得に反対する意見について ⑤10周年記念誌の進捗状況について ⑥役員の退任及び選出について ⑦未加入校調査と案内について

【2016年度 第３回役員会】
日時　2016年9月１日（木）10：00～11:00
場所　きゅりあん（品川区総合市民会館）
参加者　協議会役員全員
主な審議･報告事項　①総会・養成教育フォーラムの進行確認について ②養成教育セミナー準備の進行確認について ③総会の進行確認について ④養護教諭関係団体連絡会報告について

【2016年度 第４回役員会】
日時　2016年　9月２日（金）16：35～16:50
場所　きゅりあん（品川区総合市民会館）
参加者　協議会役員全員
主な審議･報告事項　①総会・養成教育フォーラム・養成教育セミナーの反省と次年度の日程について ②協議会発行のメールマガジンについて

（前庶務：遠藤伸子）

10周年記念誌発刊にあたり

10周年を祝して、10周年記念誌を発刊いたしました。元理事の大原榮子先生には、10年間の活動資料の整理や編集作業をサポートしていただきました。あらためて読み返してみますと、読みやすさ、見やすさは十分とはいえませんが、ぜひ一読していただきたいと思います。

記念誌は、10年間の歩みを記録に残して今後の発展に役立てることを目的にしています。3つの柱を重視して構成しています。1つめは、設立までの経過と設立準備委員会の活動を記載する（記念誌P2～9）。2つめは、10年間の活動を横断的に整理する（記念誌P10～25）。10年間の活動年表は文字が小さいのですが「総会の講演」、「養成教育ワークショップ」、「養成教育フォーラム」、「養成教育セミナー」の活動が、年を重ねるごとに広がっていることがわかります（記念誌P10～11）。3つ目は、設立時から文部大臣へ働きかけてきた実績を記す（記念誌P51～65）。創設1カ月後の2005年12月には、中央教育審議会中間報告「今後の教育養成免許制度の在り方について」組織力をいかしてパブリックコメントを提出し精力的に活動しています。その他にも調査研究等、会員校の現状を知るうえで貴重な資料を記載しています。

発行にあたり苦戦したことは、設立時の資料がフロッピー保存のため、PCの復元が難しく、散在する資料を集めて、新たに打ち直す作業に時間がかかりました。10年前の手書きの資料からは、諸先生方の熱い思いが伝わってきます。諸先生方のご尽力に心から敬意を表します。１０年間の重みを実感しながら、本協議会の発展に向けて身を引き締めて取組みたいと感じています。

（10周年記念誌担当理事：櫻田淳）

<10周年記念誌販売>1冊1000円
2017年2月18日（土）～19日（日）女子栄養大学松戸キャンパスにて販売コーナーを設置します。

事務局からのお知らせ

皆様のご協力のお陰によりまして、2016年度総会及びフォーラムは、151名の会員の皆様の参加をもちまして滞りなく終えることができました。心より感謝申し上げます。

2017年度の総会及びフォーラム、セミナーは、会場借上げの都合上、日程が変更になりました。よろしくお願いいたします。

2017年度総会及びフォーラム、セミナー
9月6日（水）、7日（木）：きゅりあん

2017年度の会員登録、基本調査、会費請求書は、3月に発送いたしますので、よろしくお願いいたします。

（事務局：河田史宝）

会計よりお願い

8月末までに、すべての会員校より会費を納入頂きました。ご協力ありがとうございました。

2016年度総会におきましては。2015年度決算、2016年度修正予算のご承認、そして、何よりも、2017年度からの会費値上げにつき、ご承認いただきましたことをお礼申し上げます。次年度からは１校３万円のご負担をいただくことになりますが何卒よろしくお願い致します。

2016年度は、修正予算を立てたものの現段階ですでにかなり厳しく、昨年度度並みの支払いを続ければ赤字もやむをえない状況になっています。

役員で知恵を出し合い、節約できるところは精一杯節約しながらやっていきたいと考えています。記念誌の販売等もご協力いただければ幸いです。

（会計：宍戸洲美）

理事就任にあたって

下村淳子（愛知学院大学）

このたび、前副会長　三村由香里先生の後任として、理事をさせていただくことになりました。どうぞよろよろしくお願いします。新たに副会長に就任した遠藤伸子先生の業務を引き引き継ぐことになり、役員会開催などの庶務全般を担当させていただきます。1年半の任期ですが精一杯頑張りますので、ご支援・ご協力の程、よろしくお願いします。

編集後記

今年の総会では、熊本での震災からの復興に向けて取り組まれている熊本大学の佐藤伸子先生からご報告いただきました。改めて震災時の学校の役割、専門職としての養護教諭の役割について考える機会になりました。同時に何年たっても震災の記憶を風化させなることなく、復興に向けて、どのように考え、行動していくと良いのか、一人ひとりが真摯に考えていくことの必要性を実感いたします。

今年も残すところ1カ月余りとなりました。会員大学の皆様には、たくさんのご協力いただき、感謝申し上げます。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。また来年がより良い年になりますようお祈りしております。

（池添志乃・櫻田淳・荒木田美香子）

日本養護教諭養成大学協議会　http://www.j-yogo.jp/

【事務局】金沢大学人間社会研究域学校教育系
河田　史宝
TEL&FAX：076-234-4106（事務局）
E-mail：yogojimu@j-yogo.jp